

平成29年度 デイサービス事業報告 （期間：平成 29 年 4 月 ～ 平成 30 年 3 月末）						
分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献 の視点	・出張デイの参加	・高年クラブでの集まりの依頼時に参加させていただく	実施回数	年4回	年4回	・野瀬、双葉、古池、若狭野（認知症サポーター養成講座）地区の高年クラブの集まりに参加した。
	・地域の奉仕活動、野瀬地区清掃に参加	・清掃日を確認し参加させていただく	参加回数	年2回	年2回	・清掃活動に合計3名参加した。
	・西播磨認知症サポーター連絡会主催 ラン伴×あいおい イベントに参加	・デイをスタート地点とする事で外部の方にもこすすの 事を知っていただく			年1回	・野瀬自治会長様もスタート時に参加して下さった。デイ利用者様も外に出てイベントを盛り上げて下さった。
収支 の視点	・稼働率の維持 一般型82% 認知型88%	・毎日の稼働状況の把握、キャンセル対応を行う。	稼働率	85%	85.90%	・一般型85.5% 認知型86.7% 総稼働率85.9%。定員数より多めの予約数を受けた。空き情報を毎月ケアマネに連絡した。
	・介護3以上の受け入れ	・居宅訪問し特浴や利用空き状況の連絡、利用者様の状況を伝える	人数	20名	年平均21名	・ターミナルの依頼、ミントラッグ吸引の利用者を受け入れた。
	・人件費率の管理	・毎月の収益と人件費の割合を確認する。	%	2%の減少	9%の減少	・自立支援を促す事で、現場職員の人数を減らした。
	・事業費の削減	・光熱費、給食費の削減。毎月確認を行う。	%	5%の減少	7%の減少	・節約の呼びかけ、意識づけを職員間で行った。デマンドコントロールに力を入れた。
	・要支援者の送迎時間の見直し	・要支援者を15:15からの送りとし、16時送りの人数を減らす	人数	5名	6名	・16時送りの利用者数を減らす事で、パート勤務の16時までとすることが増えた。
	・総合事業 平均稼働率目標63%	・ケアマネへの定期的な案内と実践報告を行う	%	63%	25%	・相生市・利用者の需要が無く、利用希望者がいない。結果9月ごろよりほぼ変化ない。
	・総合事業 人件費の削減	・兼務の職員体制	勤務体制			・7月より兼務職員1名で対応した。
		・有償ボランティアの確保				・無償のボランティア6名が活動、うち1名は特養の入職につながった。
利用者の 視点	・利用者様個人目標を知り、達成を支援する	・半年ごとに目標を聞きそれに向けたリハビリを勧める。	目標	達成	達成	・個人目標シートを作成する事で、目標に添ったリハ、レクを職員統一して提供を行う事ができた。
	・利用者様、家族様に自立支援を促してからの自宅での様子の”声”を伺う	・請求書にメッセージを書いていただく用紙を同封する。	人数	20名	19名	・利用者様や家族様から「あまり変わらない」。や「家でも下膳をするようになった。」等の声をいただいた。感謝の言葉も頂き職員のモチベーションアップにも繋がった。
	・ボランティアを確保し、リハや芸術作品の充実を図る	・セミナー参加者からボランティア登録していただき、月2回程度の活動に参加していただく	人数	5名	10名	・ボランティア登録していただき、手芸クラブ、調理リハ、習字教室を実施していただく。作品の販売やハートフルの出品に繋がった。
	・調理リハの取り組みを充実させる	・実施時のボランティアの確保、環境を整え、毎週1回を定着させる。	人数	4名	5名	・こすす新聞に料理リハの実施、参加者募集を掲載する。ケアマネにもアピールし調理の様子を動画や写真を見ていただく。ケアマネから調理リハの希望新規3名依頼があったり、利用曜日変更で1名参加していただいた。
	・ポイント還元イベント時にケアマネ参観日を開催する	・利用者様の様子や取組を見ていただく機会とし、ケアマネ参観日として案内をする。	居宅数	4居宅数	4居宅	・開催日前にも再度案内をする。社協、リリー、プラム、グリーン各居宅方5名が参加してくださり、自立支援の取り組み、利用者様の様子、SPBDのビデオを見ていただいた。
	・総合事業 自立支援に向け目標設定、メニュー提供	・毎回終了後にアンケートを実施	実施回数	毎回	毎回	・毎回のアンケートにて満足度の確認 満足度の高いメニューを提供している。
業務プロセス の視点	・業務の効率を図る	・自立支援を促し利用者様が出来る事を増やし、職員の生産性を図る	回数	年6回	年6回	・ポイント制を導入し、自主リハ、脳トレ、お手伝いと利用者様が自主的になるよう促した。
	・インカムの導入し職員間の情報伝達の効率を図る	・インカムを8人分購入し送迎後から装着する				・導入した事により職員間の伝達、情報共有が早くなり高まった。
	・総合事業 利用者自身が評価できる方法の確立	・3か月ごとの振り返りを行う	回数	3か月に1回	3か月に1回	・利用者本人との振り返りを行い、ケアマネとの共有を図った。
学習と成長 の視点	・重度化に向けた介護技術、知識の研修を受ける	・外部研修や法人内研修に参加し勉強会にて伝達する	回数	年6回	2回	・認知症実践者研修1名参加、中途採用研修4名参加した。
	・特養に実習研修を受ける	・重度介護者の実習研修や看護処置等の見学をする。	実施回数	2か月に1回	年2回	・2名の介護職員がユニットに実習研修入り、重度化対応の実習を行った。
	・制度改革による今後の動きについての研修に参加	・外部研修内容を確認し参加する。	回数	2回	2回	・通所ケア研究大会に2名、デイの利用増につながる用具的活用研修に2名参加し、今後の制度改革の動きや在宅生活を支援するデイのウリをのPR方法を学んだ。